



TITLE:

たより

AUTHOR(S):

野尻, 抱影

---

CITATION:

野尻, 抱影. たより. 天界 1933, 14(152): 77-77

ISSUE DATE:

1933-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165443>

RIGHT:

## た　よ　り

山　本　一　清　様

たゞ今——約5分前、長田氏が米國の天文學者の間に尊敬を受けて居られることと、これに對する餘韻の深い御感想とで結ばれた御講話(ラヂオ)を拜聴しまして、まだ喜ばしい昂奮の中にありながら、ペンを取りました。ほんとうに良い、有難い御土産話で、ならんで聞いてゐる子供にもよく分りました。アルクトウルスを博覽會に結びつけたアメリカ式の實驗にも驚きましたが、火星に酸素が絶望との宣告には、今後の通俗科學小説家から獨參湯を奪つた事になり、微笑を禁じ得ませんでした。トンボⅠ氏のこと、長田氏のこと、いつか「天文學ほど expert とさもない人との間隔の遠いものは無い」云々と仰やつたお言葉が、不圖、腦裏に閃いて來ました。尚ほ御誕生日が私の亡父と同月同日だつたのには、拍手を御送りしました。(御安心下さい、80歳までの長壽で、明治節の秋晴の眞晝間に大往生をしました。又、此の事實がないと、明治節から百ヶ日が紀元節に當るなどいふ發見は無い筈でした。)本日の御話を承はつて「天界」の御紀行の次號が待たれますし、もう一度拜讀致します。話は違ひますが、先日ブラジルの南米支部を代表して神屋信一氏から親切な御文に接し、同便で蝸を1匹試験管で贈つて戴いたのですが、長の航海中、蝸に魂が戻つて逃げたらしく、からの封筒だけ届いたのは残念でした。星座に縁のある「巨嘴鳥」やトカゲも送つて下さうといふので銃を用意してゐたとあつたのも、如何にも豪健な南米氣分で、小生は切りにドイツの『ロースト・ワールド』の情景を想ひつゝ、星で結ばれた未見の友人たちの健康を心から祝福しました。小生、只今はチョーサーの“Astrolabe”(星座儀考)をスキートの註にて研究、これから「カンタベリ・テイルズ」の中に多い占星術に就き英文學の一論稿を執筆する筈であります。それと、友人のギリシャ語學者を相手に、アラトスの全譯を目論見つゝあります。天文ファンにも、これで中々残されてゐる仕事があります事を御笑認願ひます。つい、御禮が脱線致しました。時下御自愛を祈り上げます。敬具

十　月　15　日

野　尻　抱　影